

第2回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	令和元年8月19日(月) 午前10時から正午まで		
開催場所	茅野市役所8階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p>会議の進め方について説明</p> <p>————— 説明 —————</p> <p>質問・意見なし(※会議の公開について了承される。)</p>		
事務局	<p>前回の会議内容や進行状況等について説明</p>		
委員	<p>(前回の会議後に五味委員から出された意見シートについて五味委員に説明を求める)</p> <p>第二次についての戦略策定であるが、かつては茅野市民約3万人だったが、現在は5万人を超える地域になった。諏訪圏6市町村のなかではリーダーとなる地域に成長した。理由は様々だが、土地が安いことや、とても自然豊かであることが人口の一定の水準を保っていると思う。人口減少が問題となる中で、人口増に向けた活性化を、基本に立ちかえるとともに、市民に分かりやすい戦略を提供したいという趣旨の意見である。</p>		
事務局	<p>(前回の会議にて返答できなかった行田議員からの質問に対する回答)</p> <p>商品開発の1件について、手のひらサイズの縄文土偶マスコットは特許の出願はしていない。新技術新製品開発事業に携わっているが、こちらも特許を出願している企業もあるが、自社の技術を生かした製品改良や産業効率向上のための技術開発が主になっている。顧客の獲得や、経営の安定を図っている企業が多い。特許の取得については、出願にかかる費用や、ノウハウを持つ人材の確保の課題を抱えている。企業ニーズを把握しながら特許取得の支援を考えている。</p>		
事務局	<p>(五味様からの意見シートに対する回答)</p> <p>H25年度の数値を参考に設定し、実績7件に対しKPIを10件とした。その後H27~30年で11件と達成したが、確かに目標設定が低すぎたこともある。県内の各自治体において様々な考えや意見があり情報を得ながら総合戦略に反映させていきたいと考えている。</p>		

委員	<p>「楽園信州ちの」の移住の数値は、以前から関係者間でも課題となっているが、あくまで協議会を通して把握できている移住の件数でしかない。市民課の住民票のデータを見ると茅野市は転入者の件数はとても多い。この10件の数字はたしかに誤解を招きかねない。他の自治体の取り組みを参考にするというよりは、データの取り方について違いがあるということ。他の自治体は住民票の転入のすべてをカウントしている。茅野市の年4回の移住ツアーで約3~4組の移住があることは素晴らしいこと。正確なデータの取り方を整理したら、違う目標や違う取り組みが出来ると考えている。</p>
市長	<p>データとしての継続性と統計数値としての内容について精査をし、内訳を示さなければならない。次回の策定の課題としていきたい。</p>
事務局	<p>アンケート調査結果・速報  <hr/> 説明</p>
委員	<p>全体の中で、特に15歳~18歳向けのアンケートの結果について、前回と比較して結果が大きく変わってきている。若い方向けのアンケートの結果の信憑性について検証するとともに、結果が大きく変化したからといって一喜一憂するのではなく、慎重にならなければいけない。細かい検討はこれからだと思うが、変化が各世代で出ているなかで、市として検討するべきところは、茅野市としてこれまでやってきた施策の効果が出ているのかの検証を次回教えてもらいたい。</p> <p>若者の就職希望先が、医療関係が一番ということが将来の安定を求めていることがうかがえる。茅野市に住む子供たちの就職希望先の順位が、地元産業構造とあまりに違うことは残念な思いがある。できれば、茅野市にある産業に意欲をもってもらいたかった。小さい子供を含め、茅野市に帰ってきたいと思えるよう、もしくはもっと地元の産業に関心を持ってもらえる策を出していきたい。地元産業に希望を持ってもらえる子が一人でも多くなってもらいたい。</p> <p>回答者数が20数%、なぜこれほど低いのか調べてもらいたい。答えにくい、提出しにくい、書きにくい理由があると思う。もっと回答しやすい方法があるのではないか。デジタル世代であり、紙の郵送よりもインターネット回答のほうがよかったかもしれない。また、提出されなかった70%強のフォローも大事かと思う。</p>
市長	<p>アンケートの調査の仕方に問題があるという指摘があったが、郵送だけでは難しいのではないかなど様々な問題があるかと思う。次回までの参考にしたい。まだアンケート調査結果は変わる可能性があるので、それも含め形にしたい。</p> <p>基本目標3 数値目標・KPI・総括  <hr/> 説明</p>
委員	<p>観光について、人数の数値はあったが、一人当たりの消費額の単価がどう変</p>

	<p>化しているのか、KPIの産業指標を出す中で、消費金額の数値はあった方がいいのではないかと思います。どれくらい消費金額の単価が下がってしまっているのか。わかりやすいところでは、エコーライン沿いのレストランの売り上げを見ると人数と連動しているのではないかと考えている。観光地の集計が取れた方がいいのではないかと。</p> <p>観光という点で、人を呼び込める茅野市の最大の魅力は別荘地だと思う。蓼科湖周辺のビーナスライン沿いに衰退感がある。衰退感があると人は離れて行ってしまふ。そこを、ブランディングの再構築を考えていくといいのではないかと。最近では間もなく、アーバンリサーチさんが蓼科湖畔に再開発をして新しいキャンプ場を作っている。今造っているレストランなどはまさに再開発によるブランディングの象徴になる施設になるのではないかと考えている。別荘地の再開発によるブランディングも議論してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>別荘地について、やはり魅力のない観光地に人は訪れない。実際、軽井沢に行った人が蓼科に来ると、軽井沢より気候もよくてとても過ごしやすいと言ひ、土地を買って別荘を建てている方がいる。ただ実際には別荘を建てる方は少なくなってきたいて、また今の若い方たちは、別荘を引き継ぐことが負担になり、維持するよりも別荘を売却をする方が増えている。最近ではリフォームの打ち合わせに行き、だいぶ古びているのを見ると別荘を持つことの魅力が落ちているのかと感ずることもある。しかし別荘そのものは個人資産なのでどうすることもできない。年々、別荘地の魅力が落ちてきているのを感じる。</p>
<p>市長</p>	<p>デベロッパーの別荘地の新しい魅力づくりに努力をし始めている。茅野市全体の観光イメージに関わってくる。次の計画策定に反映させていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>外から観光客を呼び込むためには、茅野市の人がいかに茅野市の魅力を外の人に伝えられるかが重要。先日知り合いが山梨へ行くと言っていたので、「山梨に行くより茅野市に行った方が絶対楽しいですよ」と白駒池のルートを教え話していたら、ヒュッターへ宿泊を取り直し、本当に来てくれた。彼女のフェイスブックには魅力的なところの写真をたくさんあげてくれていた。伝えることは大切だと感じた。きれいな空気や風景があふれている中で、茅野市に魅力についてどれだけ伝えられるか。茅野市民が観光大使になれるくらい情報を持つことが大事。市民向けにこのまちを知るプログラムがあるといいのではないかと。観光客は魅力を感じられれば自然と発信してくれる。このまちの魅力を知ってもらふ観光の施策が大事ではないかと。</p>
<p>市長</p>	<p>新しい魅力づくりが必要な時代になってきている。例えばリゾート・別荘・医療と言われているが意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>4エリアと書かれているが、八ヶ岳・蓼科湖・白樺湖は外から見るとただの点でしかないと感ずている。広域のことで教えてもらいたい、体験や、自転車を売り物にした連携があるのか。例えば北海道・東北地方では、縄文の関係で北海道から県をまたいでひとつの観光を打ち出している。茅野市では</p>

	<p>広域エリアでの観光プログラムはあるのか教えてもらいたい。例えば諏訪湖と組んだり、八ヶ岳の広範囲で組んだりして、広域で体験できたり周遊できたりするものがあると、3~4日かけて遠くから来る人には魅力的に感じるのではないかな。</p>
事務局	<p>4 エリアの構想として、かつて茅野市を「蓼科高原」として売り出したことがあることに始まる。当時は、外の人に向けて茅野市では「蓼科」が一番売れるとしていた。なかには「白樺や車山なのになぜ蓼科高原なのか」と疑問が持たれたこともある。茅野市で有名なもの、一番魅力的なものと言ったら蓼科であった。その反省や検証を踏まえて、八ヶ岳登山も素晴らしいし車山の景色の魅力もあるとわかってきたとき、次にそれを売り出そうとした際、考え出されたのが、エリアごとに魅力的なものを掲げ相乗効果で売り出そうとした4エリア構想。当時は「縄文の里」として売り出しても、わかりにくかった。</p> <p>広域の観光については、現在ビーナスラインの連携協議会のページ中でも紹介しているのでそちらをご覧ください。</p> <p>ちの観光まちづくり推進機構（DMO）は、茅野市内の事業者だけでなく茅野市以外の他の事業者とも連携している。</p> <p>来年以降に旅行商品も広域的な商品を扱って広告を打っていきたい。</p>
市長	<p>決して、その場で納得していただかなくて結構ですので、どんどん違うと思ったところは指摘していただきたい。目標設定など様々な視点でご意見お願いします。</p>
委員	<p>自転車に関しての魅力的なロードコースを考えている。諏訪湖のロードコースは平坦で、初級者のロードレーサーにとっては魅力なのかなと感じる。もし、茅野市で自転車のコースとしてやるとしたら、麦草峠を登り→山梨県141号→八ヶ岳横断道を周り帰ってくるとだいたい110kmある。このコースが本格的であり、グローバル的に喜ばれるコースだと思う。もし観光の目玉としてロードコースとした場合、最近ではeバイクというものがあるため、走り切ることは可能である。eバイクはアシスト付きのロードレース用のバイクで100キロは走れる。鉢巻道路から茅野市の八ヶ岳の道路も整備されているのでコースがよい。麦草峠の昼の景色は絶景で人気。富裕層をターゲットとしたロードコースとして売り出してもいいのではないかな。成功例として「しまなみ海道」があるが、「八ヶ岳街道」などと名付けてもいいのではないかな。空気が薄いところは体にいいと聞くが、「空気がいい」ということだけはお金では買えないものなので、そのブランディングの方法も考えたい。</p>
	<p>基本目標 ——説明——</p> <p>児童虐待や、育児放棄で保護されている子について報道があるが、諏訪圏で</p>

	<p>は岡谷にある児童養護施設「つつじが丘学園」に保護されるようだ。茅野市は人口が増えているため、保護を必要とする児童数は岡谷よりも茅野の方が相対的には多いのではないかと推測される。茅野市内に児童養護施設の必要性も考えられるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>不妊治療について、産婦人科に通うことができる環境が大切だと考える。支援などがなぜ必要なのか、周りに協力してくれる人がいない環境、配偶者との問題といったパパママ講座があるといいのではないかと。父親との関わり合いが根本的な問題になってくると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>施策はいろいろあるが、既に行っている事業について具体的な工夫をしたらどうか。ファミリーサポート養成講座の講師をしているが、教養講座として一般の方にも公開したらどうかと思っている。子どもの取り巻く問題を学べる機会でもあり、今ある事業を利用できる。受講者が増えればいいと考えている。</p> <p>行政と相談しながらやっている中では、幼児保育の施設が新たにできて、利用しやすい環境ができてきているので、積極的に活用してもらったらいのではないかと。</p>
<p>副市長</p>	<p>北山地区の観光産業関係者を中心とした活動団体がファミリーサポート事業の講義を受けた。観光業で働く人たちが日曜や祝日に子供を預けられない環境にあったが、団体としてファミリーサポート事業を開始した。地域で連携して子供をみるという事業には発展性があるのではないかと。子育てに関して学べるのはすごく大事なのではないかと感じる。</p>
	<p>基本目標 5 ——説明——</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの P43～で、転入者に対して入区の案内やパンフレットを渡しているとのことだが、各地区の規約は市役所の窓口揃っているということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>規約等の資料は備え付けていない。簡単な案内をしていて、区長の名前・加入金・区費などにとどめていて、詳しくは区長へたずねてもらおう形をとっている。</p>
<p>委員</p>	<p>職業柄、なるべく詳しくその土地柄を案内できるよう心掛けている。</p> <p>形式的なところで言えば、古くから住む茅野市の住民は区費は当たり前だと思っても、外から来る人にはとても衝撃的なこと。転入者がなぜ町内会費が高額なのかと疑問思った時に、丁寧に説明する必要がある。地域が活性化して入区者が増えるように、市で地区の規約の指導をしてもらえるといいと思う。区費の内訳を書いていけば納得してくれることもある。</p> <p>地区によっては金額も高額であり、中には保証人が必要なこともある。新しく来る人が知らない人へ保証人をお願いが出来るはずもない。戸籍謄本を提出させる地区や、「入区に際して協議します」といった地区もある。区長一人ひとりは一生涯懸命やってくれていると思うが、なぜ入区に際しそれが文書</p>

事務局	<p>で示されているのか、そして今の時代にそれが適切なのか疑問だ。新しい人を迎え入れる体制として、市がもう少し区と協力してほしい。</p> <p>自分もお客様へ説明する際に、最後には必ず「区の規約なので」と伝えるしかなくなってしまう。気持ちよく歓迎してくれる地区もあるなかで、そういう地区を見直すことも市で指導していただけるとありがたい。</p> <p>今後の計画策定の参考にしたい。</p> <p>資料 8 ——説明——</p>
委員	<p>スワリカブランドについては、目標値と実績値のとおり、いろいろな行動力の結果、実績値が上回っていて、現時点では順調であるといえる。一番期待されていることと言えば、KPI の 3 番目だと思う。要望だが、茅野市が国の予算でやっている関係もあるが、ここに参画する事業者は茅野市が中心になってしまう。大学としては、成果を出したいと考えており、少なくとも諏訪 6 市町村に広げて許可してもらいたい。地域を限定することは成果につながらない。ベストな企業に来てもらいたい、ベストな結果を出したいという考えを持ってもらいたい。</p>
委員	<p>消防の関係で、消防団員がかなり減っているとのことだったが、若者がいなくなっているなか、存続が厳しい状況で今後どういう方法を考えているのか。どう消防体制を強化していくのか伺いたい。</p>
事務局	<p>団員定数については減ってはいないが、毎年 30～40 名の欠員が出ている状況。働き方の多様化やポンプ操方大会に対する住民意識の変化から負担感を感じている消防団員や若者が多い。負担軽減のためにポンプ操法大会や各種行事の参加方法の見直すことが必要な社会状況にあることから、消防団の組織や運営の在り方を示す「茅野市消防団総合計画」を策定することになり、策定委員会を発足し、検討作業を進めている。「茅野市消防団総合計画」は来年度の策定を目指している。「茅野市消防団総合計画」を通じて、消防団の在り方を見直すなかで消防団員の確保に努めていきたい。</p>
委員	<p>防災訓練ついて、先日会津へ行ってきた。会津では南海トラフなど危機感を持ちながら、防災訓練を行っていた。通常、人が集まりやすい時間帯で行っているが、実際いつ来るかわからない災害に対して、時間の指定をして訓練をするのはどうか。今後は、実施率が下がったとしても様々な時間帯で柔軟な対応をしたほうが、本来の防災訓練になるのではないかと感じた。</p> <p>6 その他 7 閉会</p>